

泊小学校のスタ場!!!!

2026, 1, 19(月)

第45号

那霸市立

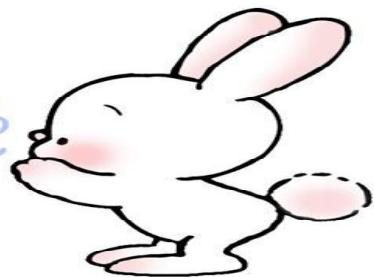
泊小学校

校内新聞

「スタ場」とは、「スタートの場」「スタディの場」「スターの場」を表しています。

あれから31年

阪神・淡路大震災のこと



1995(平成7)年1月17日午前5時46分、淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の大規模な地震が発生しました。この地震は、日本で初めての大都市での直下型地震でした。気象庁ではこの地震を「平成7年 兵庫県南部地震」と、政府は地震によって発生した災害を「阪神・淡路大震災」と名付けました。

地震の被害は、死者6434名、行方不明者3名、負傷者43792名、全壊家屋約105000戸、半壊家屋約144000戸と大きなものでした。

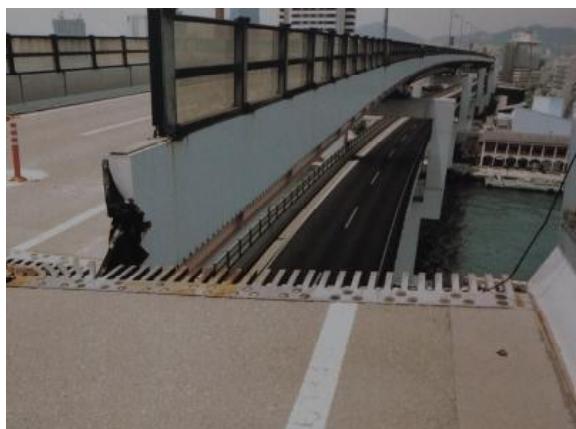
早朝のため、死者の多くは、建物に押しつぶされた圧死が多かったようです（関東大震災は火災による死者、東日本大震災では、津波による死者が多かった）。

また、大都市を直撃した地震のため、電気、水道、下水道、ガスなどのライフラインもすべて止まり、高速道路が倒れて、全面通行止めになりました。被災した人々は、約600か所の避難所で、帰る家もないまま、長期間生活を送ることになりました。社会や産業に与えた損害額は、約6兆9千億円と考えられています。

兵庫県では、『阪神・淡路大震災復興計画（ひょうごフェニックス計画）』を立て、被害を受けた街を元通りにすることだけでなく、すべての人々が安心して生き生きと暮らせる街を目指して計画を進め、復興を果たしてきました。今も、震災で学んだ多くのことを生かして取り組みを進めています。



橋桁(はしげた)が横にずれた国道2号浜手バイパス



橋桁は16か所ずれており、最大は3.5mあった

地震(じしん)の おこるしくみ



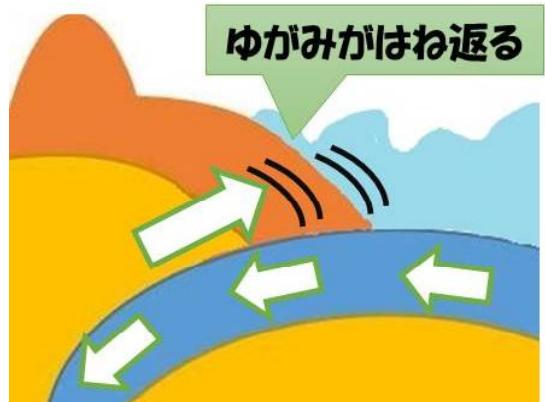
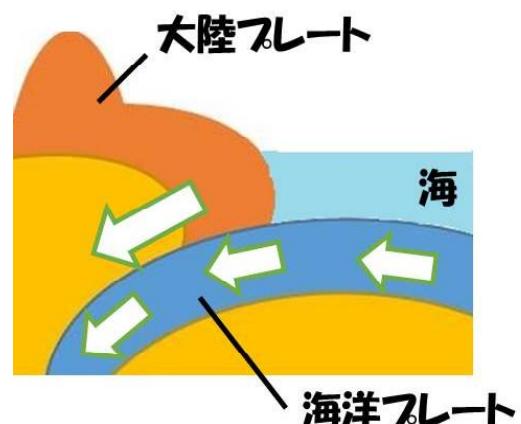
さて、地震はどうやって起こるのでしょう？

地球の表面は、厚さ70~100kmの10数枚のプレート（岩石層）でおおわれています。サッカーボールを地球とすると、表面の黒い五角形や白い六角形がプレートにあたります。このプレートには、大陸プレートと海洋プレートがあり、大陸や海をのせてゆっくり移動しています。日本のまわりには4つのプレートがあります。

このプレートは、年に数センチずつ動いてぶつかり合い、そのゆがみがたまるとき、プレートはもとに戻ろうとしてね返ります。この時に大きな地震が起ります。

また、こうしたゆがみが、日本列島の地下に伝わって、活断層（かつだんそう・今後も活動する可能性がある断層）がずれをおこすと、内陸部地震が発生します。日本列島には約2000の活断層があるといわれています。

阪神・淡路大震災を引き起こした兵庫県南部地震でも、淡路島の野島断層などの活動によって発生しました。このような活断層のずれによる災害を防止するため、活断層が通る地帯での土地開発を考える自治体が出てきました。神奈川県横須賀市では、行政指導によって、活断層上の団地の建設等を変更させた例があります。また、立て替え時に、活断層上を避けて校舎を移した学校もあるようです。活断層上を駐車場や公園として利用するなど、将来の地震による被害を未然に防ぐ工夫がされているのです。





阪神・淡路大震災 復興(ふっこう)に向けた取組

さて、兵庫県内には、阪神・淡路大震災の記憶を語り継ぎ、震災の状況や復旧の過程などを記録した展示や模型が数多くあります。

神戸港震災メモリアルパークは、116mにわたって倒壊したメリケン波止場の一部(60m)をそのままの状態で保存し、見学できる施設です。映像や写真パネルもあり、震災のすさまじさを肌で感じられます。

また、神戸市役所の南にあるマリーナ像は、地震で土台から倒れ、像の持つ時計も5時46分で止まったまま壊れました。その後、像は修復されましたが、時計は震災の記憶を永遠にとどめるため、今も地震発生時刻を示しています。

そして、震災から5年後の2000年1月17日には、被災10市10町を巡った種火と全国47都道府県から寄せられた種火を合わせて「1.17希望の灯り」が点(とも)されました。

さらに、毎年12月には犠牲者への慰靈と鎮魂の意を込めた「送り火」として、また、間もなく新しい年を迎える神戸の復興・再生への夢と希望を託して神戸ルミナリエが開かれています。



神戸港震災メモリアルパークの遺構(いこう)



地震で倒壊し、修復されたマリーナ像



神戸ルミナリエ（2009のテーマ）



1.17 希望の灯り



地震発生時刻のままの時計